



平成19年11月5日

各位

会社名 株式会社日本トリム
代表者名 代表取締役社長 森澤 紳勝
(コード番号 6788 東証1部)
問合せ先 執行役員管理事業部長 尾田 虎二郎
(TEL: 06-6456-4600)

業績予想修正および特別損失(個別)計上に関するお知らせ

当社は、平成19年5月14日の平成19年3月期決算発表時に公表した平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)業績予想(連結・個別)を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。また、個別におきまして特別損失が発生いたしますので、その内容について併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成20年3月期中間期業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

①連結

(単位:百万円)

	売上高	営業収益	経常収益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,474	938	960	545
今回発表予想(B)	4,893	697	725	383
増減額(B-A)	△581	△241	△235	△162
増減率(%)	△10.7	△25.7	△24.5	△29.8
前期実績(平成19年3月期中間)	5,403	1,062	1,105	626

②個別

(単位:百万円)

	売上高	営業収益	経常収益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,384	912	951	568
今回発表予想(B)	4,814	743	793	243
増減額(B-A)	△570	△169	△158	△325
増減率(%)	△10.6	△18.6	△16.7	△57.3
前期実績(平成19年3月期中間)	5,306	1,025	1,078	643

(2) 平成20年3月期通期業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

①連結

(単位：百万円)

	売上高	営業収益	経常収益	当期純利益
前回発表予想 (A)	10,220	1,311	1,357	725
今回発表予想 (B)	8,715	673	743	322
増減額 (B-A)	△1,505	△638	△614	△403
増減率 (%)	△14.8	△48.7	△45.3	△55.6
前期実績 (平成19年3月期)	9,571	1,390	1,488	793

②個別

(単位：百万円)

	売上高	営業収益	経常収益	当期純利益
前回発表予想 (A)	10,036	1,305	1,388	814
今回発表予想 (B)	8,573	847	945	332
増減額 (B-A)	△1,463	△458	△443	△482
増減率 (%)	△14.6	△35.1	△32.0	△59.3
前期実績 (平成19年3月期)	9,402	1,407	1,530	897

(3) 業績予想数値の修正の理由及び次期の見通し

(個別)

中間期個別売上高につきましては、職域販売部門（DS・HS事業部DS）、OEM・卸販売部門（業務部）、店頭催事販売部門（SS事業部）において、対前期割れとなりました。

職域販売部門、及びOEM・卸販売部門につきましては、いずれも新規となる大手取引先に対する展開を現在推進しておりますが、上期の業績に大きく寄与するには至りませんでした。下期から新たに取引を開始した大手取引先もございますので、引き続き早急且つ積極的な推進を実施して参ります。また、大手OEM先への新規OEM製品投入につきましても、期初の計画には及んでおらず、営業面でのバックアップも含め、拡販に向けた協力体制を取っております。

店頭催事販売部門におきましては、人員再編の途上にて上期の業績は対前期割れとなりましたが、上期半ばに新たなインセンティブ体系を確立し、これに基づく新規外務員の拡充も着実に進んでおります。第2四半期にかけて10名程度新規採用しており、下期初頭にも更に5名を採用の予定です。これにより、下期業績へと寄与するものと考えております。

尚、取付け及び紹介販売部門（DS・HS事業部HS）は、顧客データのきめ細やかな管理によるアプローチを進め、順調に推移しており、ストックビジネスであるカートリッジ販売部門につきましては、前期比29%増程度と今後も安定して伸長していくものと思われま。

また、詳細を後述する特別損失が発生しております。

以上の結果、中間業績予想値を上記のとおり修正いたしました。

既存事業回復・伸展の施策として、11月より新製品「TRIMION TI-5HX」の販売を開始しました。更に、新たな販売チャネルの創出等、販売拡大の為に、資本提携も視野に入れ、業務提携の積極的な取り組みを推進しています。

一方、経費削減のため業務フローを見直すと共に、6月から全社員による社内提案制度を設立し、優秀な提案を積極的に採用し、実施しております。運送費削減や旅費交通費削減等につきましては、下期から効果が出てきます。引き続き顧客満足の観点からも積極的に業務フローの改善と併せ、経費削減に努めて参ります。

尚、当連結会計期間は、将来の飛躍に向け、中長期的視点に立ち、研究開発、広告宣伝等への積極的な投資期間とも位置付けております。

広告宣伝につきましては、ホームページの大幅な見直しやWeb対策を実施いたしました。また、浄水器との差別化を明確にし、整水器の認知度を向上させることを目的に、本年11月より新たなCMの放送を開始いたしました。（毎日放送「知っとこ！」毎週土曜日AM7:30～AM9:25）

当下期におきましても、マスメディアを通じた積極的な露出を展開し、トリムブランドの確立を目指してまいります。

研究開発につきましては、東北大学大学院との人工透析への応用に関する研究は、順調に進展しており、今期中に新たに3病院との臨床研究に入る予定です。また、電解還元水の飲用によるメタボリック症候群への効果や糖尿病への効果を検証すべく、臨床データの集積を行なう計画をしております。メタボリック症候群に関しては、既にプレデータとして良い結果を得ており、糖尿病に関しましてもインビトロで既に国際学術誌に論文を発表しております。その他、基礎研究は勿論のこと、農業、工業等、他分野への電解還元水の応用を目指し、精力的に研究開発を推進して参ります。

市場環境といたしましては、健康志向の高まり、水に対する意識の向上により、厚生労働省から胃腸症状の改善に効能・効果を認められた整水器に対する需要も益々高まっていくものと思われれます。また、来年4月より、メタボ対策として健康保険組合に対して、40歳以上の被保険者・被扶養者を対象とした特定健診実施、健診後の保健指導が義務化されますが、当社の電解還元水研究の取り組みが、こうした分野でも貢献していけるものと考えております。また、それにより飲用分野での非常に大きなマーケットを構築できるものと確信しております。

このように、当社では、短期的業績向上への足元を固めつつ、中・長期的な投資を積極的に行っております。

通期個別業績につきましては、中間期個別業績の修正を反映した上で、下期については、上記の取り組みが収益に貢献していくと予想されるものの、平成19年10月時点で不確定な見込みは除き、上期の傾向を下に確実に見込める業績予想としております。以上の結果、通期業績予想値を上記のとおり修正いたしました。

（連結）

中間・通期連結業績につきましては、上記の中間・通期個別業績の修正を反映しております。連結子会社部分につきましては、平成19年10月時点で不確定な見込みは除き、上期の傾向を下に確実に見込める業績予想としております。個別において発生する特別損失につきましては、連結では相殺されるため影響はありません。以上の結果、期初の当社予想を下回る見通しとなったことから中間・通期業績予想値を上記のとおり修正いたしました。

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の様々な要因によって上記予想数値と異なる場合があります。

(4) 特別損失の計上およびその内容

①貸倒引当金 382 百万円

当社は、遺伝子診断キット研究開発、販売を行なう米国グループ会社TrimGen Corporation (トリムジンコーポレーション) に、平成19年9月時点で、765百万円を貸し付けております。

事業環境整備、研究開発、資本政策等、此許大きな進展がありましたが、今来期(平成19年12月期～平成20年12月期)中における相応の黒字化が、平成19年9月時点では確定していないため、貸付金の内、382百万円を保守的に引き当てることといたしました。

尚、TrimGen Corporationでは、本年10月26日に遺伝子診断キットEQ-PCRのFDA510(k)の承認申請を完了いたしました。2008年春には承認の見込みですが、その後はこれまでの試薬販売からキット販売が可能になることで、ターゲットとなる市場も拡大します。またこれと並行して、検査事業を行うクリアラボ開設に必要となる臨床検査免許申請を、本年中に行います。この検査事業につきましては、キット販売に比較して市場規模も大きく、安定的収益を望めるものと考えております。

一方、日本国内での展開も視野に入れ、IPOを目指し、TrimGen Corporationの持株会社として本年5月に(株)トリムジン ホールディングスを設立しております。

以上